

社会福祉法人グリーンローズ

「ことば」の教室
オリブ園
インクル

卒園おめでとう
新年度が始まるよ!!!
卒園児作文
私の主張2016 優秀賞



第38回少年の主張秋田県大会優秀賞

言葉で思いを

にかは市立仁賀保中学校1年

きのしたまほ
木下真歩

「マホちゃん」

これは、私が生まれて初めて、意味のある言葉として発した言葉です。この言葉を発したとき、どんなに家族が喜んだことか。

私は生まれたときから耳の聞こえが悪く、難聴だと言われました。0才9ヶ月から補聴器を付けましたが、補聴器だけでは、聴力が上がりません。そこで3歳のときに、人工内耳をつけるために手術をしました。その後、聴覚支援施設で発音訓練をしました。訓練をしているうちに少しずつ話せるようになりました。でも、あまり発音が上手ではなく、言いたいことが伝わらなかったときもあります。保育園の頃、友達とケンカをしたり、たたいたりしたとき、「ごめんね。」と言ったつもりなのに、伝わってなくて、「真歩ちゃん、ごめんなさいしてないよ。」と怒られたことがありました。仲直りしたいのに、私の発音がわかりにくいというだけの理由で、仲直りできないということが悲しかったです。話せるようになりたくて訓練を頑張りました。その成果で「ありがとう」「ごめんね」と自分の気持ちを言葉にして伝えることができるようになりました。私が「ありがとう」と言えば、相手が喜んでくれる。私は自分の思いを言葉にして人々に伝えることがどんなに楽しいか、やっと知ることができたのです。

私は周りに、「前向きで明るい」とよく誉めてもらいます。でも、本当の私は、気持ちが弱く、小さいことを気にするタイプです。やはり、自分の話し方が気になります。特に、初対面の人には、「何を言っているか、分からない。」と言われそうで、話しかけるのが怖くなります。私の通っていた小学校が統合して、新しいメンバーと出会ったとき、私のことを理解してくれるかとても不安でした。それでも思い切って、私の方から「初めまして、よろしくね。」とあいさつをしたことで、友人関係をスタートさせることができました。中学校での、新しい出会いの場面でも、「よろしくね。」と声をかけました。

手話で会話という方法もありますが、私は自分の声でコミュニケーションをとるのが好きです。大好きな、心の友という存在の友達と、お互いに好きなものの事で盛り上がりたり、悩みを相談し合ったり。そんなとき、コミュニケーションをとるって楽しい、と心から思います。私の言っていることが分かっていないのに、「うんうん。そうだね。」と相づちを打たれると、私自身がてきとうに扱われている感じがします。だから、私の言っていることが分からなかったときは、「もう1回言って」と伝えてほしいです。

発音訓練のために、わざわざ秋田に連れて行ってくれた父と母。私たちが訓練に行っている間、1人保育園で待っていてくれた妹。妹はまだ小さいのに、私のせいでお母さんがそばにいないことを一度も責めませんでした。私がこうして話せるのは、支えてくれた家族のおかげです。だから私は、家族を悲しませるような、また人を傷つけるような言葉を発したくありません。人は、周りの人の音声をまねすることによって話せるようになると言われていきます。私が「マホちゃん」と言えるようになったのは、私が聴こえなくても、「真歩ちゃん」「真歩ちゃん」と呼んでくれていたからです。家族を思い、周りの人を思い、そして自分のこれまでの人生を思いながら、言葉の一つ一つを大切に発したいと強く思います。

私の将来の夢は、インテリアで人々の暮らしを幸せにすることです。海外でも活躍するような仕事をしたいと思います。外国の方々ともコミュニケーションを取り合えるように、今は英語の学習を頑張っています。初めまして—。この言葉で、これから先もいろんな人とつながっていきたいと思っています。

「Hallo!よろしくね。私は真歩です。」



裏面もありますよ!

何かありましたら誰にでも連絡・相談

E-mail olive@kodomo-sekai.com
ホームページ http://www.kodomo-sekai.jp

卒園

平成28年度の卒園式は、年度の最終土曜日の3月25日に39名中19名の卒園児とご家族の方が出席して行なわれました。それぞれの卒園児が、自分を発揮して卒園式に参加してくれて良い卒園式になったと思っています。オリブ園に通われることになった時の思いも、その過程での思いも、卒園を迎えた時の思いも、通っていただいたご家族の数だけあると思っていますが、ご家族の皆様の心配や不安に少しでもお手伝いすることが出来たでしょうか？卒園はひとつの区切りですが、新しい出会いに続いています。お子さんたちには、毎日元気に学校に通って、楽しいことをいっぱい見つけてもらいたいと思っています。家族の方には困難なことも、楽しいことも、これまでのようにあると思いますが、元気に子育てできますように願っています。そして、その子育てに私たちが出来ることがありましたら、いつでもお声をかけてください。

入園

平成29年度から、入園式は行わないことにしました。オリブ園は、ご家族の方が必要としてくださったときが始まりの時ですので、一斉に行う事は、今の制度に合わなくなってきていると考えたからです。今年度は、4月4日から始業しました。新しいお子さんやご家族の方との出会いが始まっています。子どもは、遊びの中から様々なことを学んでいきます。オリブ園では、様々な遊びを用意しています。しかし、ただ遊ばせれば良いというわけではありません。遊びの中に含まれている多くの要素を組み立てて構成していますので、遊びに付き合いながら大人も色々な事に気付いていくこと、「気づき」が大切です。家族の方は、お子さんと一緒に遊びを経験することで、色々な遊び方を学ぶと思います。また、お子さんは、気持ちを共有することで楽しいやりとり、共感する気持ちが育ってきます。元気に通ってきてほしいと思っています。オリブ園では、お子さんやご家族の方が元気に過ごしていけるようにお手伝いしたいと思っています。何かありましたらお話しただけだと思えます。ご家族の方と一緒に考えていきたいと思えます。どうぞよろしく願いいたします。

保育所等訪問支援(幼稚園・学校・その他療育施設も入ります。)のススメ

理事長 後藤進

子ども発達支援センター オリブ園は、子どもたちの発達支援をするのが仕事です。それでは「発達支援」とはどのようなことをさすのでしょうか。子どもの持っている力を、せいっぱい出すことが出来るように支援することとオリブ園では考えております。そのためには、家族の方や、保育園・幼稚園(学校の先生も入ります。)や地域の人みんなの力が必要です。

ここでは、オリブ園の支援の形をみてみましょう。

年齢の小さい子どもたちはお母さん(家族の方)と小さなグループをつくって、いろいろな遊び方や声かけの仕方、子どもの気持ちを理解する、などを学びます。子どもたちは、家族の方々と楽しく遊びます。家族の方は子どもたちの元気さや楽しさを見て、自分も元気に子育てに向かいます。子どもたちは元気さと楽しさの中で(もちろん悲しいことややしいこともあります)、自分をいっばいに出します。子どもたちは成長していきます。これが小グループ支援です。

保育園・幼稚園に入った子どもさんは、小グループの支援を必要とする場合もありますが、基本は個別支援です。子どもたちの個性や力を理解し、子どもたちに合った様々な支援を行います。保育園・幼稚園での苦手な部分について、得意なものから伸ばしていきます。これが個別支援です。

他にも社会性に特化したグループ=きりん組、運動に特化したグループ=わんぱく運動教室もあります。

保育園・幼稚園に先生が出かけて行って、その保育園・幼稚園の場で、子どもたちを支援する活動があります。これを「保育所等訪問支援」と呼んでいます。これは家族の方が要望し、保育園・幼稚園(学校も入ります)が了解すると実現します。負担が増える場合もありますが、増えない場合もあります。子どもの生活の場での支援は、非常に大切だと思います。お母さんが保育現場での子どもの生活をなかなか見れない場合や、お母さんが用事でオリブ園に通って来れない場合が早くから分かっている場合など、ぜひ使ってみて下さい。担当が行ける場合もありますが、理事長が行く場合もあります。詳しいことは担当に聞いて下さい。



何かありましたら誰にでも連絡・相談

E-mail olive@kodomo-sekai.com

ホームページ <http://www.kodomo-sekai.jp>

📞オリブ園 018-828-7750

📞放課後等サービス・インクル2 018-827-7411